

	事業名等	実施日	内容	開催回数・参加人数
理解促進	1 認知症サポーター養成講座	随時	認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを多世代にわたり養成した。	43回 延1,650人 (内訳) 一般314人(14回) 中学生520人(5回) 小学生521人(11回) 幼児223人(11回) 市職員72人(2回)
	2 図書館との連携事業	令和5年9月	図書館に、認知症に関する書籍コーナーを設置。また、小学生の親子を対象に、敬老の日特別おはなし会を実施し、高齢者や認知症に関する絵本の読み聞かせを行った。	おはなし会参加者20人 (内訳)大人12人 こども8人
	3 普及啓発イベント オレンジウィークinほんじょう	令和5年9月19日～23日	9月の世界アルツハイマー月間に、普及啓発イベントを開催した。認知症に関するパネルや認知症の人の創作品、認知症の人や家族の声の展示、相談会、講演会や出張認知症カフェなどを行った。また、子育て支援センターや学童保育所へ読み聞かせにおいて認知症に関する図書活用を依頼した。	展示404人、講演会146人、出張オレンジカフェ98人、体験154人、映画上映72人、相談会9件、(再)おはなし会20人、スタンプラリー124人
	4 広報ほんじょう	令和5年9月号	「あなたの大切な人が認知症になったら」認知症対応型共同生活介護事業所の職員やオレンジカフェを主催する認知症サポーターへのインタビューを通し、当事者の思い、地域の支えについて発信した。	
相談先の周知	1 地域包括支援センター、病院等の周知		地域包括支援センター、認知症サポート医、かかりつけ医認知症対応力向上研修修了者の名簿、認知症疾患医療センターをホームページ上に公開、また認知症ケアパスの配布・活用により相談先を周知した。	
早期発見・早期対応・医療や介護	1 認知症初期集中支援事業	初期集中支援チーム検討委員会 令和6年3月	初期集中支援チームは適用事例がなかった。検討委員会は、早期診断・早期対応に向けた支援体制の構築について、令和6年度計画について検討した。	検討委員会1回
	2 認知症ケアパスの普及	随時	情報や内容の見直しを行い、個別相談、認知症サポーター養成講座などで配布したほか、高齢者の便利ガイドにも掲載し、普及を図った。	随時
	3 本庄市キャラバン・メイトの会	定例会 偶数月第木曜日	メイトの会の協力を得て、認知症サポーター養成講座イベント等の開催をした。メイトの会への出席を通して現状把握や関係づくり、運営の後方支援を行った。	キャラバン・メイトの会 6回 認知症地域支援推進員との意見交換 1回
	4 認知症ケア相談室	随時	認知症対応型共同生活介護事業所に、専門的知識を活かした介護方法等の相談窓口を設置し、地域包括支援センター等関係機関と連携した相談対応を行った。	認知症対応型共同生活介護事業所5か所に設置 相談件数1件
	5 認知症個別相談会	オレンジカフェと同日開催	認知症に関する市民からの相談に対応するため、地域包括支援センターに委託して、オレンジカフェと同日開催した。	相談日数66 相談件数6件
	6 認知症初期スクリーニングシステム	随時	認知症初期スクリーニングシステムの案内を、介護保険被保険者証送付時に同封したほか、地域包括支援センターの相談や認知症普及啓発イベントにてチェック表を配布し、併せて相談先の周知を行った。	アクセス数延べ2,114人
	7 グループホーム情報交換会	令和5年7月13日、11月13日、令和6年3月12日	市内の認知症対応型共同生活介護事業所の情報交換会を開催して横のつながりを支援するとともに、地域のネットワーク形成を図った。	開催回数3回、参加事業所数9箇所、参加延べ人数22人
介護者への負担軽減の促進	1 認知症カフェ(オレンジカフェ)	地域包括支援センター 月1回×5会場 隔月1回×1会場 (試験的実施3回) 任意団体 3会場	認知症の人や家族、地域住民や専門職が集う認知症カフェを市内9箇所(地域包括支援センター6箇所、任意団体主体3箇所)で実施した。また、小規模多機能居宅介護事業所を会場とした認知症カフェを試験的に行った。任意団体については、地域包括支援センターが支援を行った。	地域包括支援センター(委託事業) 開催回数66回、参加延べ人数895人、ボランティア延べ154人 任意団体(補助事業) 3か所
	2 認知症家族の会本庄	毎月第4水曜日	認知症の人を介護する・していた家族が集う家族の会を開催した。	開催回数12回、参加延べ人数41人
地域支援体制の強化	1 ステップアップ講座	令和5年10月17日、24日	認知症サポーター及び既にボランティア登録済の認知症サポーターを対象に、認知症に関する理解を更に深めチームオレンジとして地域で活動するため講座を開催し、併せてチームオレンジのボランティア登録の説明を行った。	2日間×1回 参加者数16人、延べ人数32人、認知症サポーター延べ18人 ボランティア登録6人
	2 認知症サポーター意見交換会	令和5年4月20日、7月20日、11月8日	ステップアップ講座を修了した登録サポーターの活動状況報告や意見交換、勉強会等を行った。	開催回数3回、参加延べ人数54人
	3 チームオレンジほんじょう	認知症サポーター意見交換会の対象者向け研修会10月17日、24日(ステップアップ講座と同時開催) キックオフ会11月30日 定例会12月から毎月1回開催	認知症サポーター意見交換会を発展的解消し、チームオレンジほんじょうを設置した。月1回定例会を開催し、活動内容について話し合った。	キックオフ会(初回)23 定例会4回、参加延べ人数81人
	4 地域づくり推進事業		登録認知症サポーターや本庄市キャラバン・メイトの会、医療・介護の関係機関、地域の団体等と連携し協働で事業を実施しながら人材育成を行い、支援のマッチングを進め、ネットワーク形成と連携強化を図った。	

取組の結果

・本庄市キャラバン・メイトの会や地域包括支援センターと協力・連携してメイトの人材育成を図り、認知症サポーター養成講座を開催しました。養成者数は1,650人でした。今後は企業・団体、教職員やPTA等へも実施できるよう、地域包括支援センターの活動を通して周知を行います。
 ・認知症普及啓発イベントについては、認知症サポーター、キャラバン・メイト、介護保険事業所、地域の関係者等と協働し開催しました。実施会場を縮小したところ、講演会や出張オレンジカフェの参加者が増えています。また、商工観光課の事業と連携することで、若い世代の来場者が増えました。
 ・令和5年度11月に、「チームオレンジほんじょう」を設置しました。毎月1回定例会を開催し、活動内容について話し合っています。認知症の当事者や家族と認知症サポーターがともに活躍できるよう、また認知症の人の困りごとを支援する仕組みを整えるため、チームオレンジの活動を推進します。
 ・認知症初期集中支援チームについて、居宅介護支援事業所や民生委員等への周知を工夫する必要があります。